

# 米倉教公の週間為替市場見通し

8/15 日週号

『市場参加者少なく荒れやすい！』

ドル/円予想レンジ 100.00 - 103.00 円

## ■今週の市場動向：週末低調な米経済指標受けドル失速

今週のドル/円の週足では、行って来いで陰線引けとなった。週明けは、前週の米雇用統計の強い結果を受けたドル買いや、日本株が上昇したこともリスク選好の動きが強まった。欧米の株高や米長期金利の上昇も相場を支え、一時 102.65 円まで上昇した。ただ、9 日は米 4-6 月期非農業部門労働生産性(速報値)が予想を下回ったことが嫌気され米長期金利が低下したことでドルは失速した。10 日は休日前の薄商いのなか、日本株の下落につれリスク回避の円買いが強まった。その後米国株安も重なり一時 100.96 円まで反落した。11 日は東京市場が休日となり小動きに終始したが、米国市場で米株 3 指数が史上最高値となり、米長期金利や原油価格が上昇したことでドルは切り返した。12 日は欧州時間で 102.27 円まで上昇する場面があった。しかし、米 7 月小売売上高や米 7 月卸売物価指数 (PPI) が予想を下振れするなど、低調な米経済指標を受けてドル売りが加速し、一時 100.82 円まで下押しした。引けにかけてはショートカバーなどが入り 101 円台を回復した。

## ■来週の注目点：市場参加者少なく荒れやすい

来週前半は本邦勢の多くがお盆休暇で不在ということもあり、引き続きアジア時間帯を含め流動性の低下が見込まれる。そのため、通常では動意薄い出来事であっても、突発的なニュースに対する値動きが荒くなりやすい。日銀の追加緩和観測があるなか、週明け日本の 4-6 月期 GDP が注目される。1-3 月期は『うるう年』で底上げされていた。4-6 月期は円高や世界減速などもあって、反動減速が警戒される。低成長となると、一次反応として円高・株安を招くが、二次反応として日銀の追加緩和期待が膨らみ相場の下支えになる。英国が EU 離脱の決定された後初めての発表となる英国の 7 月インフレ指標にも注目が集まる。EU 離脱決定後、ポンド安が輸入コストを引き上げているため、英中銀が目標としている 2%をどれだけ上回っているのかが注目点となる。26 日のイエレン FRB 議長の講演までは、ドルや米国の金利動向に明確な方向性は出ない可能性がある。



## ★先週の気になる出来事

日本株は7月末の日銀の追加緩和でETFの買入れを3兆円から6兆円に増額した。そのため、下落時には日銀がETFを買ってくるという心理的プレッシャーにより何とか下げ止まっている。そのため、NT倍率が大幅にかい離するなど、市場に歪みが生じ始めているのは確かだ。日本の債券先物市場も思惑が交錯しつつ日々大きな動きとなっており、市場が壊れかけているような動きとなっている。市場が道を外しかける前に何か手立てを打たないと、外国人投資家は日本株マタギになってしまうかもしれない。

## ■テクニカル的な見解

8月9日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+41,700から+48,831へと円の買い持ち高は前週からさらに増加した。パラボリック(パラメータ:0.08,0.3)では、8日に買転したものの、週末には売転となった。102.650円を上回ると買転となる。MACD(パラメータ:12,26,9)では、MACDとシグナルがデットクロス継続。ストキャスティクス・スロー(パラメータ:14,3,3,20,80)では、一時買われ過ぎ域から%Kと%D上向きとなったものの、再び下落基調に変化。75日移動平均線は緩やかに下落基調維持。ストキャスティクスは売られ過ぎ域にあり、下押しも限定的になりやすい。2日安値100.64円が意識されるものの、下抜けすると7月8日の99.99円が下値目途となる。上値目途では8月始値の102.26円や2日高値102.83円を意識。今週は1ドル=100.00-103.00円を想定する。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。